

指導資料

社会 第130号

鹿児島県総合教育センター
平成30年4月発行

対象 小学校 中学校 義務教育学校
校種 特別支援学校

社会的な見方・考え方を働かせた社会科学習指導の充実 —よりよい社会生活を目指した学習過程の工夫—

小中学校の新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現の鍵となる社会的な見方・考え方を働かせた学習指導の充実が求められている。本稿では、よりよい社会生活を目指した小単元の学習過程の工夫を通して、その指導の具体を示す。

1 社会科で育成すべき資質・能力とは何か

(1) 求められている資質・能力

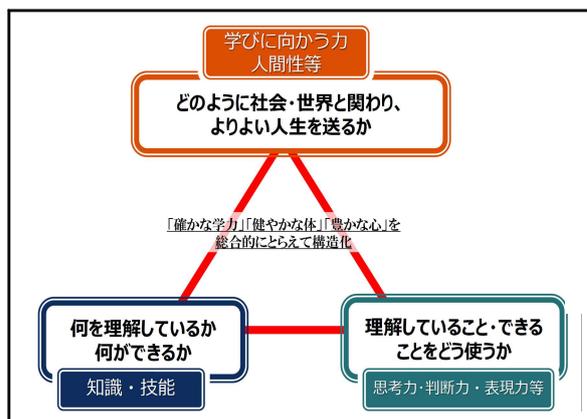
平成29年3月の学習指導要領改訂では、児童生徒が変化の激しい時代に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることを求め、育成すべき資質・能力を三つの柱として整理している(資料1)。

これらを踏まえて社会科では、求められる資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている。

(2) 社会科における目指すべき資質・能力

この改訂の趣旨を踏まえ、社会科、地理歴史科、公民科では「公民としての資質・能力」の育成を目指すこと、小・中学校においては「公民としての資質・能力の基礎」を育成することを求めている。また、社会科の教科の目標には主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、資質・能力全体に関わるものとして、小学校学習指導要領解説社会編の柱書き部分に「社会的な見方・考え方」を位置付

【資料1】 育成すべき資質・能力の三つの柱



【資料2】 小学校社会科目標の柱書き

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。(下線は筆者)

「小学校学習指導要領解説 社会編」より

けている(資料2)。

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善においては、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を位置付けた学習過程を工夫することが求められ、その鍵として「社会的な見方・考え方」を働かせる必要がある。

3 よりよい社会生活を目指す学習過程とは

(1) よりよい社会生活とは何か

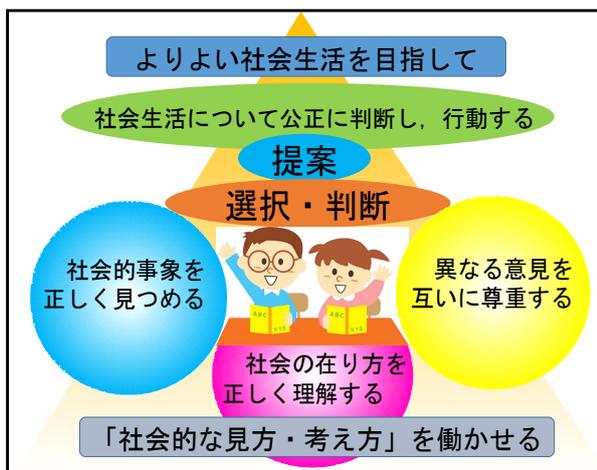
社会生活とは、社会の関わりの中での人と人との生活のことである。社会科では社会生活の理解が土台となり「公民としての資質・能力」を育成していく。

人間は、社会の様々な営みや人々との関わりの中で生活している。その中で、一人一人が具体的な社会的事象を正しく見つけ、その事実から見える社会の在り方を正しく理解しながら、異なる意見を互いに尊重しながら公正に判断し、行動していくことが大事である。

具体的には、「社会的な見方・考え方」を働かせ、社会生活の在り方について考察し、それらの課題を捉え、これからの社会生活へ生かすためにその在り方を選択・判断したり、改善について提案したりすることを通して、より望ましい社会生活を構想していこうとすることである。

そのためには、児童生徒が学習したことをよりよい社会生活につなぎ、自ら社会に関わろうとする態度を育てることが必要であると考える（資料6）。

【資料6】 よりよい社会生活を目指すイメージ



なお、「社会的な見方・考え方」を働かせることによって、よりよい社会生活を構想するための選択・判断する場面と具体的な提案をする場面を学習過程に位置付けることが重要である。

(2) よりよい社会生活を目指す学習過程をどのように工夫するか

児童生徒が学習したことをよりよい社会生活に生かせるようにするには、身近な生活に関わる問題を自分のこととして受け止め、問題を解決しようとする意識を高めることが重要である。そのために、以下のような小単元の学習過程を構想した（資料7）。その際、①、②、③の場を意図的に位置付けた学習過程を工夫することが効果的である。

【資料7】 よりよい社会生活を目指す学習過程例

過程	主な学習活動の工夫
つかむ・見通す	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 切実感のある資料提示による学習問題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な生活と関連付けた切実感のある資料提示により、解決の見通しをもたせる。 </div>
調べる	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">追究する活動</div> </div>
まとめる・生かす	<p>① 選択・判断する場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことを整理させ、よりよい社会生活を目指した改善プランを立てさせ、多面的・多角的に選択・判断する場を通して決めさせる。 <p>② 提案する場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が根拠をもって判断したことを自ら社会の中の一員として、よりよい社会生活に関係付けた工夫として提案できるようにまとめさせる。 <p>③ 表現する場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 判断、提案する場を基にして、自分たちの生活で実践できるアイデアとして学校や地域に呼びかける標語等に表現することを通してよりよい社会生活につなげられるようにする。
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-top: 20px;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">よりよい社会生活</div> </div>	

(3) 実践例

学習過程例に沿った実践例を紹介する。

第4学年 小単元名「水はどこから」(全12時間)

過程	主な学習活動	指導の工夫	教師の発問と児童の反応 (T:教師, S:児童)
つかむ・見通す	<p>1 市民一人当たりが1日に使う水の量や年ごとの使用量の移り変わりを調べる活動を通して、気付いたことから学習問題を設定し、予想を立てる。</p> <p>私たちの生活に必要な水は、どこからどのように送られてきているのかな？また、これからも水を使い続けていくためにどのようにしていけばよいのかな？</p> <p>2 予想を基に、学習計画を立てる。</p> <p>小学校に来る水は、近くの川から送られてくるのかな？</p> <p>今の生活のまま、水を使い続けても大丈夫かな？</p> 	<p>【興味関心が高まる資料提示】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水道管の蛇口を見せ、水は、どこから、どのように送られてくるのかを問うことで、本小単元全体で「水」のゆくえを追究する意欲が高められるようにする。 <p>【切実感のある資料提示】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に、使用している水の量を牛乳パックの本数で示し、1日に一人当たり多くの水を使用していることを実感できるようにする。 1日一人当たりで使う水の量が増加しているグラフから水の有限性についての切実な思いを喚起する資料の提示を行う。 <p>【よりよい社会生活を問う学習問題の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の有限性に注目させ、水を使うことの大切さに気付かせ、その切実感を基に小単元の学習問題をつくらせる。 	<p>【興味・関心をもたせる場】</p> <p>T: これは、水道の蛇口です。この蛇口からは、いつでも水が出てくるかな？</p> <p>S: 出てきません。</p> <p>S: その蛇口は、水道管につながっていないから、出てきません。</p> <p>T: では、ここの水道管はどこにつながっているの？</p> <p>S: 近くの川かな？</p> <p>S: 山につながっていると思う。</p> <p>【切実感をもたせる場】</p> <p>T: 市の人口の変化と水の使用量の变化の二つのグラフからどんなことが言えるかな？</p> <p>S: 人口は減っているけど、使う水の量は増えてきている。</p> <p>T: このことをどう思う？</p> <p>S: 一人当たりの水を使う量が増えていると思う。</p> <p>S: これからも水の量が増えると将来が心配だ。</p> <p>S: 大丈夫かな。</p>
調べる	<p>3～8</p>	<p>学習問題を解決するための追究の柱に沿って調べたり、見学したりする活動(略)</p>	
まとめる・生かす	<p>9 調べて分かったことを整理する。</p> <p>10 限りある水を使い続けるために、自分たちができることを考え、どのプランがよいか判断する。</p> <p>11 考えたことを市役所の方に提案する。</p> <p>12 自分で実践していくことを表現し、小単元のまとめをする。</p> <p>また、家族や地域の人々に呼び掛ける標語を作る。</p> <p>標語にして、水を大切にするように呼び掛けよう。</p> 	<p>【選択・判断する場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を大切にすることの必要性に気付かせ、水を使い続けるために自分たちができることを考え、どのような工夫がよいか根拠をもって判断させる。 <p>【提案する場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの水を大切に使うプランを市上下水道課の方に提案したり、市の今後の水道水確保の計画などを聞いたりして、水の使い方についてよりよい社会生活につながる自分なりの考えをもたせる。 <p>【表現する場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが社会生活の一員として協力していくことの大切さに気付かせ、自分でできることを考え、日常生活で取り組もうという意欲をもたせる。 	<p>【選択・判断する場】</p> <p>T: 出されたプランの中で、どれが一番いいと思う？</p> <p>S: 歯みがきは、コップ1回の水ですませるプランがいいと思います。</p> <p>S: なぜなら、30秒で約6Lの水が流れるから、1日3回で18Lの節約ができるからです。</p> <p>【提案する場】</p> <p>T: 市の方の話聞いてどう考えましたか？</p> <p>S: 市の人もたくさんの努力をしているんだね。</p> <p>【表現する場】</p> <p>S: みんなにもこのプランを呼び掛けよう。</p> <p>S: 標語にして呼び掛けよう。</p> <p>【標語例】</p> <p>「大切だ 残った水を 使おうね」</p>

(日置市立鶴丸小学校 宮田靖弘教諭の実践を基に作成)

今後も、社会に見られる課題を捉え、習得した知識及び技能を活用して、主体的・対話的に解決に向けて選択・判断することを通し、よりよい社会生活を目指した児童生徒の育成に努めたい。

—引用文献・参考文献—

- 学習指導要領解説社会編 (平成29年3月)
 - 見方・考え方「社会編」澤井陽介著 東洋館出版
 - 総合教育センター研究紀要(121号) 平成29年3月
- (教科教育研修課 高山 謙一)